

はじめに

高血圧は全国民の3分の1が罹患しており、心不全としては発症のリスク段階であるステージAに位置づけられているだけでなく、経過中に状態を悪くする要因(増悪因子)でもあるため、その介入は非常に重要です。一方で、使用される薬剤は多岐にわたり、この数年でも、ARNI、SGLT2阻害薬、イバブラジンなど新規薬剤も多く上市されており、現場はそのUp dateに苦勞されているものと思われます。

本書「みえる！わかる！循環器のくすり ～心不全・高血圧編～」は第1部で薬剤の適応などの各論を、第2部で薬剤の病態別の薬剤選択を、第3部で高血圧と心不全の病態と疾病管理を解説しています。いずれも高血圧・心不全診療の第一線で働く医療者により基本的な部分から執筆されていますので、高血圧や心不全に苦手意識をもつ医療・介護関係者の方から経験豊富なスタッフまで広く学びが得られる内容となっています。高血圧と心不全に使用される薬剤にしぼって特集しておりますので、同系統の薬剤について知りたい場合などにも非常に有用なものとなっております。

薬剤を通して、高血圧・心不全診療を見直し習熟に活用できる良書ですので、座右の書として使用いただければ幸いです。

2026年3月

医療法人社団まほし会真星病院 循環器内科
大石醒悟